

より、そう、ちから。

東北電力からのお知らせ

本紙は女川原子力発電所が立地している女川町、石巻市と、隣接する登米市、東松島市、涌谷町、美里町、南三陸町の皆さまに向けたコミュニケーション紙です。

「東通原子力発電所の防護設備の性能試験等の未実施及び不適切な試験記録等作成」に関わる根本原因分析結果および改善措置活動計画の報告について

東通原子力発電所(青森県)において、防護設備の性能試験などの未実施や不適切な記録の作成などを行っていた事案について、昨年11月20日の原子力規制委員会で「重要度：緑(4段階中、上から4番目)」「深刻度：SLⅢ(4段階中、上から3番目)」と評価され、根本的な原因の分析を踏まえた改善措置活動の計画について報告が求められておりました。

当社は、本事案に関する根本原因分析の結果および改善措置活動の計画を取りまとめ、2月18日、原子力規制庁に報告しました。

今回の事案を発生させてしまったことは、原子力事業者としての信頼を損なうものであり、当社として極めて重く受け止めております。

女川原子力発電所においては、同様の事案は確認されておりませんが、今回策定した改善措置を水平展開し、核物質防護業務のさらなる業務品質向上に努めてまいります。

改善措置の概要はこちらをご確認ください



女川原子力PRセンターで **見る 知る 学ぶ**

女川原子力PRセンターは楽しく学べるコーナーがたくさん!!

施設内で体験できる主なアクティビティです!!

PRセンターでいっぱい学ぼう!

手回し発電機で電気をつくらしたり、発電方法の仕組みを学んでみよう!

元気いっぱい遊べるキッズコーナーもあるよ!

まるで電球の中に入ったように見えちゃうトリックアートも

ポイントをもらって記念品をゲット!

SNS投稿でペーパークラフトをプレゼント!

PRセンターへご来館されたお客さまにはポイントカードをお渡ししております! 3ポイントゲットでオリジナルペーパークラフトをプレゼント!

PRセンターへのご来館	1ポイント
誕生日のお客様	2ポイント
【#女川原子力PRセンター】をつけてSNS投稿	1ポイント

VR発電所見学ツアーも実施中!

女川原子力発電所2号機の安全性向上の取り組みをVR(バーチャルリアリティ)＝仮想現実映像で見学してみよう!

360度方向に広がる発電所の景色は見どころ満載!!

VRゴーグルは、目に大きな負担がかかる場合がありますので、12歳未満のお子さまへは推奨しておりません。12歳未満のお子さまにつきましては、大画面のスクリーンにてお楽しみいただけます。
※時間帯等によってはご視聴いただけない場合がございます。ご了承ください。

360度動画 女川原子力PRセンター内をスマホでバーチャル見学!!

PRセンター館内を360度好きな方向で自由に見学しよう!

原子力発電のしくみや原子炉模型を分かりやすく学べるよ!

スマホ等で二次元コードを読み込んでご覧ください

女川原子力PRセンター 入場無料

〒986-2221 宮城県牡鹿郡女川町塚浜字前田123 (駐車場:普通車35台 ※大型バス駐車スペース有)
TEL 0225-53-3410 FAX 0225-53-3286

■見学可能日・時間
9:30~16:30 (休館日 毎月第3月曜日(祝日の場合翌日)、年末年始)

■見学所要時間
個人約30分、団体約60分(案内つき)

※ご希望のお客さまにはアテンダントによるご案内がございます(事前申込必要)。※見学時間をご予定に合わせて調整いたします。※館内に飲食施設はございません。※館内には授乳室がございます。

石巻線	石巻	約30分	女川	タクシー	約30分(17km)	女川原子力PRセンター
石巻線	石巻女川IC	約30分	女川	タクシー	約30分(17km)	女川原子力PRセンター
渡波	渡波	約16分(5km)	小積	約17分(8km)	約25分(8km)	女川原子力PRセンター

※時間は目安です



燃料の取替え

560体ある燃料集合体について、新燃料との取替え要否を評価し、取替えを実施します。1月19日から28日にかけて原子炉から使用済燃料プールへ燃料集合体を移動しました。



制御棒駆動機構の点検

137本ある制御棒を駆動させる機構のうち、20本を取り外し、そのうち14本について分解点検を実施しています。(残りの6本については、予備品と取替えます。)



復水器※細管の点検

約27,000本ある復水器細管全数について、傷などがないか、健全性を確認する点検を行ったうえで、必要に応じて補修を実施しています。
※タービンを回した後の蒸気を冷やして、水に戻す設備。



配管減肉に係る検査

原子炉系およびタービン系の配管約170箇所について、超音波で配管の厚さを測定する機器を用いて肉厚測定を実施しています。

女川原子力発電所2号機の第12回定期事業者検査を実施しています

女川原子力発電所2号機は、1月14日(水)1時00分に発電を停止し、予定どおり第12回定期事業者検査に入りました。なお、原子炉は13時21分に冷温停止しました。

定期事業者検査の期間は、約5カ月間を予定しております。

定期事業者検査は、「核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律」に基づき、発電用原子炉施設に対して定期的実施するもので、技術上の基準に適合しているか、次の点検までの間その設備が技術上の基準に適合している状態を維持できるかどうかを確認するために行うものです。

今回の定期事業者検査において、燃料の取替えや制御棒駆動機構の点検、復水器細管の点検、配管減肉に係る検査等を行っております。

アンケートのご協力をお願いします

東北電力からのお知らせについて、ぜひご感想をお聞かせください。アンケートへご回答いただいた皆さまから抽選で15組30名さまに「仙台うみの杜水族館」ペアチケット(入場券2枚・有効期限2027年3月末日)をプレゼントいたします。



応募方法
右記の二次元コードにて、必要事項をご入力の上、ご応募ください。

応募締切
2026年4月19日(日)23:59まで



※当選発表は賞品の発送をもってかさせていただきます。※アンケートで知り得たお客さまの個人情報は、当選者への賞品の発送のみに使用します。また、いただいたご意見については、今後の紙面づくりの参考にさせていただきます。



再稼働のその先へ——安定稼働と安心・安全を支える若手社員の挑戦

フルバージョンは東北電力グループnoteに
掲載中です。ぜひご覧ください!



2024年11月、14年ぶりに女川原子力発電所2号機が再稼働し、1年が経過しました。今回は、東日本大震災後に入社し、それぞれの持ち場で、志高く仕事に取り組む若手社員にインタビュー。再稼働を迎えたときの気持ち、仕事のやりがいとモットー、そして「地域の皆さまに安心を届ける」という使命感について語っていただきました。

※本インタビューは、2025年11月に実施しました。

東北・新潟への安定供給という使命を胸に

発電所のコントロールを司る中央制御室での「運転操作」や、さまざまな指示計・データの「状態監視」、現場に設置されている機器・設備の「パトロール」などを担当し、三交替勤務をしています。私が最も気を付けていることは、間違いや操作誤りといったヒューマンエラーを起こさないこと。ベテラン(先輩)に比べて経験の浅さは自覚しているので、「確認会話[※]」や「指差し呼称」などを特に徹底し、日々エラー防止に努めています。

また、さまざまな故障を模擬したシミュレータ訓練を繰り返し行い、対応力の向上にも努めています。訓練時は、操作の優先順位を決めて原子炉を制御していきますが、目の前にある制御盤に警報が表示されたとき、警報だけで判断するのではなく、警報の背景には何が潜んで

いるのか、設備の裏側にまで想いを巡らせ、収束に向けた最適解を導き出します。これまで積み重ねてきた訓練中の試行錯誤が、再稼働後の冷静な判断につながっていると実感しています。

三交替勤務はいくつかのチームが交替で勤務します。私が所属するチームは賑やかで、年齢に関係なく意見を言いあえる環境にあることを日々感じています。発電部では、当社火力発電所からの応援者や他電力会社からの出向者などもおり、異なる目線での気づきを共有しあうことで、設備の理解がより多角的になり、現場力の向上にも直結しています。

仲間と切磋琢磨しながら、技術力を向上させていく——地域の皆さまの顔を思い浮かべながら、これからも安定稼働の責任を果たします。



発電部
渡辺さん
2020年入社

※確認会話:「スリーウェイコミュニケーション」とも呼ばれる。指示を受けた人が内容を復唱し、指示を出した人がそれを確認・了承するという、3つのやり取りで認識のずれを防ぐ方法。思い込みや聞き間違いによるミスを防ぐため、運転操作において徹底されています。

発電所としての判断・意思決定を支える

技術グループは技術系グループ全体のとりまとめ役です。例えば、発電に影響する故障やトラブルなど、グループ横断的な課題が発生した場合には、発電所としての対応方針を整理し、役割分担やスケジュールをまとめながら、計画どおりに対応が進んでいるかを確認する役目を担っています。発電所としての判断・意思決定を支える裏方とも言えますね。

再稼働工程で印象に残っているのは、原子炉の起動等の前に実施する設備の状態についての総合的な確認です。発電所長をはじめ各部門の責任者全員が速やかに判断できるよう、想像力を働かせながら入念な

事前準備に取り組みました。その調整がうまくいき、発電を再開したときの喜びはひとしおでした。2号機再稼働のニュースを見た関東在住の姉から連絡があり、全国で報じられるほど大きな仕事を成し遂げたんだなど実感しました。

震災後から取り組んできた安全対策工事によって設備の数が増え、それに伴って監視すべき項目も増えました。

これからも発電所の調整役として常にアンテナを張り巡らし、部門を超えたコミュニケーションを密に図りながら、地域の皆さまの安心につながる発電所運営に努めます。



技術統括部
渡邊さん
2013年入社

少しの変化も見逃さない



保全部
石澤さん
2015年入社

再稼働を迎えるまで、目の前にある発電機が回るところを見たことがなかった私は、再稼働して初めてその音を聞いたとき、胸が熱くなりました。「ついに動いたんだ」という感動は、すぐさま「絶対に止めてはいけない」という責任感に変わりました。

私が担当する保全業務は、設備の状態を常に確認し、故障やトラブルが起きない状態に保つこと。設備の音や温度、計器の数値など、小さな変化を見逃さないことが、安定運転に結び付きます。

再稼働前と後では、設備が動く音、空気を伝って感じ

る温度が全く違います。停止期間中に学んだ多くのことを、現場で“答え合わせ”できることにやりがいを感じています。五感をフル稼働させ、「この設備を安全に保つことが、発電所の安定運転と地域の皆さまの安心につながる」と気を引き締めて日々の保全業務に取り組んでいます。

これからも安全を最優先に、少しの変化も見逃さないよう取り組み、地域の皆さまに安心をお届けしていきます。



水質の適切な管理で発電所の安定稼働に貢献

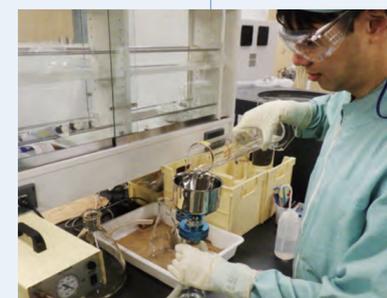


環境・燃料部
高橋さん
2021年入社

私の仕事は、原子炉内の水や、機器を冷却するための水など、発電所の水を分析・評価することです。発電所の水には金属などさまざまな成分が含まれており、そこから「現在のプラントの状況」を知ることができます。人間でいえば、血液検査で病気やその兆候を見つけることと同じでしょうか。

不具合や異常の兆候を早く見つけるには「成分の数値が基準内だから問題ない」と画一的に判断するのではなく、過去のデータと比べて数値の(増減)傾向を観察し、さらになぜそうなっているのかという原因を追究することが大切です。それにより、設備が劣化・腐食していないかなどを早期に確認できます。

再稼働の1年ほど前から先輩社員や協力会社と勉強会を重ね、原子炉起動時の水質変化などについて知見を深めました。実際の再稼働時には1時間に1回という高い頻度で各系統水の水質を確認しましたが、水質に現れた変化は概ね想定したとおりで、「学んで備える」ことの大切さを強く実感しました。



水質を適切に管理することは、機器・配管が腐食しにくい環境を整えるだけでなく、現場作業員の被ばく量低減にもつながるため、これからも水質管理を確実にし、発電所の安定稼働に貢献していきます。

働く環境と仲間を守り、明るい職場に

女川原子力発電所には社員が約600人在籍し、電力会社が定期的に行う安全確認の検査(定期事業者検査)中は協力企業の方々も合わせると約3,000人が日々汗を流しています。働く仲間が安全に、快適に仕事ができる環境を整えることが私の仕事です。例えば、建物の照明や空調の維持管理、何万灯とあるLEDへの切り替えなど——いっけん地味ですが、現場の安全を支えていることにやりがいを感じています。

日々、設備の状態変化を敏感に察知し、「業務に影響が出ないように早く元に戻すぞ」という気持ちで、仲間

と協力しながら一つひとつの課題に取り組んでいます。仕事のモットーは「明るく楽しく」です。労働災害ゼロはもちろん、みんなが安心して働ける職場を目指し、積極的に周りに声掛けするよう心がけています。大切な仲間を守るために、メンタルヘルスに関する資格も取得しました。

私の仕事は発電所の運転に直接関わるものではありません。しかし、縁の下の力持ちとして、**発電所の環境整備や職場の活性化に取り組み、これからも発電所の安定稼働に貢献していきます。**



土木建築部
若松さん
2012年入社

仕事は記憶ではなく記録で進める

品質保証部は、発電所にあるさまざまな設備の検査の司令塔として、検査計画の作成のほか、発電所内のみならず原子力の安全をチェックする国の機関(原子力規制庁)との調整を行っています。いわば発電所全体の“交通整理役”です。

私の仕事の鉄則は、「記憶ではなく記録で仕事を進める」です。さまざまな情報の上流にいる私たちの正確な判断が、発電所の安全や安定運転に直結するから、とてもやりがいがあります。稼働している発電所の空気はピリッとしています。設

備の状態変化に対する感度と対応スピードが上がり、ほど良い緊張感が安全や安定運転につながっていると実感します。

再稼働後、地域のお祭りに参加していた私に、地域の方から労いの言葉をかけていただいたときは、自分たちの仕事の重みを改めて実感し、背筋が伸びる思いでした。

丁寧な検査の一つひとつが、安定稼働(発電所がトラブルなく運転できること)と地域の皆さまの安心につながっていることを胸に刻み、日々、目の前の仕事に全力で当たっています。



品質保証部
黒森さん
2017年入社